

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	多機能型療育サポート かぼの（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 18日		2025年 11月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	2025年 11月 18日		2025年 11月 29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 25日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所では、子ども一人ひとりに対する丁寧で温かい関わりが継続的に行われており、保護者からも「安心して通えている」「職員の対応が丁寧」といった評価が多く寄せられている。また、発達段階に合わせた活動プログラムや構造化された環境整備が進んでおり、子どもが主体的に活動へ参加できる体制が整っている点も大きな強みである。	職員間で支援の方向性を統一するため、週1回のミニケース会議や日々の短時間振り返りを行い、支援の質のばらつきを防ぐ工夫を続けている。また、視覚的支援や環境調整をこどもの状態に合わせて随時見直し、安心して過ごせる場づくりやスムーズに活動に移行できる工夫を意識的に取り組んでいる。	保護者から寄せられた「より詳しい情報を知りたい」という声に応えるため、活動の意図や個別支援計画の内容を分かりやすく伝える方法の検討を進める。具体的には、説明時に写真や図表など視覚的な資料を活用し、情報提供の質を高めるとともに、連絡ツールやお便りの内容を定期的に見直し、より理解しやすい情報発信に取り組んでいく。
2	職員が子どもの特性や当日の様子を丁寧に把握し、個々に応じた支援を柔軟に行っている点が高く評価されている。活動においても、子どもの興味・得意を引き出すプログラムが工夫され、楽しみながら参加できる環境が整っている。こうした日々のきめ細かな対応や環境配慮が、子どもの安心感や意欲の向上につながっていることが事業所の大きな強みである。	子どもが活動に入りやすいよう、活動の見直し提示や選択肢の提示など、事前の準備を丁寧に行っている。また、職員同士で支援の様子や気づきをこまめに共有し、支援の統一性を保つための連携を意識的に強化している。環境整備についても、子どもの動きやすさや安全性を踏まえ、定期的に配置や教材の見直しを行っている。	よりわかりやすい情報共有を目指し、個別支援計画や活動内容の説明について、言葉だけでなく実際に取り組んだ課題を用いるなど視覚的に伝える工夫を進める。また、保護者からの要望や意見を把握しやすくするために、意見収集の方法や連絡手段を見直し、双方向のコミュニケーションを強化していく。こうした取り組みにより、保護者の理解と信頼をさらに高めていくことを目指す。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	一部の保護者から、活動内容や個別支援計画に関する説明が十分に伝わりにくいと感じられている点が挙げられる。また、支援内容の理解や情報の受け取り方に利用者によって差が見られ、事業所からの情報提供が統一されていない部分が弱みとして示された。	支援の意図や個別の計画内容を伝える際、職員によって説明の方法・詳細さに差が生じることが要因として考えられる。また、文章のみで伝わりにくい内容が多く、保護者が具体的な支援イメージを持ちづらい状況が一部で発生している。忙しい時間帯の説明となる場合、十分な共有が難しいことも影響している。	個別支援計画や活動の意図をより分かりやすく伝えるため、説明時に具体的な活動物などの視覚的資料を活用する仕組みが必要である。また、職員間で説明方法や内容を統一するための確認事項を整理し、保護者への共有の質を揃える取り組みが求められる。加えて、日々の活動記録や連絡の方法を見直し、保護者がこどもの様子を理解しやすい情報発信体制を整えていくことが改善につながる。
2	保護者アンケートでは、「どちらともいえない」という回答が一部項目で見られ、支援内容の共有方法や日々の様子の伝わり方に改善の余地が示された。また、活動のねらいや個別の支援意図が十分に理解されていないケースがあり、事業所の説明・情報提供の仕組みが課題として挙げられる。	支援報告の方法や説明のタイミングが職員によって異なり、伝える内容の深さや具体性に差が生まれていることが一因と考えられる。特に忙しい時間帯は、一つひとつの支援意図まで十分に共有しきれない場合があり、結果として保護者が活動内容を把握しづらい状況が発生している。	保護者がこどもの支援内容を理解しやすくするため、報告や説明のフォーマットを見直し、伝えるべきポイントを整理した統一的な共有方法を整える必要がある。また、写真や短い活動記録など視覚的な情報を取り入れ、支援の背景が伝わる工夫を行うことで、より理解しやすい情報提供につながると考えられる。
3			